令和４年度みどりの食料システム戦略推進交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

事業実施主体名：　日置市茶業振興会

都道府県名：　鹿児島県　対象品目：　茶

策定年月：　令和5年4月3日　目標年次：　令和９年

※事業実施計画における目標年度の翌年度から５年目とする。

環境負荷軽減の取組

	化学農薬の使用量低減	○	化学肥料の使用量低減	○	有機農業の取組面積拡大		温室効果ガスの削減（水田からのメタンの発生抑制）
	温室効果ガスの削減（バイオ炭の利用）		温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）		温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）		温室効果ガスの削減（C02、N20の排出削減）

※ 複数の栽培体系を検討した場合は、栽培体系ごとに産地戦略を策定すること。

第１　事業実施地域の現状と目指すべき姿

１　事業実施地域

鹿児島県日置市

※事業実施計画書第１の４の事業実施地域を記載。

２ 事業実施地域の現状

茶業の現状は，リーフ茶の需要低迷や新型コロナウイルス感染症拡大によるイベント等の延期・中止により，市場単価が低迷しているものの，ドリンク茶需要や有機抹茶等の海外輸出は堅調である。一方，燃油・資材価格の高騰や労働力不足により，一層の経費削減・省力化に取り組むことが必要不可欠な状況下である。

本地域においては、鹿児島県茶産地としても中間産地であり、高単価の取引が期待できる走り新茶が早場地帯が一回りしてからの出荷形態と市場の相場も落ち着いた時からのスタートとなるため、条件的には不利な地域でもある。その中で、他産地と差別化や付加価値をつけるため、令和２年度から産地全体で台湾輸出可能な茶園管理体制となっている。この茶の難局を乗り越えるため，今後はワンランクアップした有機ＪＡＳ認証の面積拡大を図る必要がある。

※１の事業実施地域の現状について、実施しようとしている環境負荷軽減の取組の実施状況等、課題と認識している点について具体的に記載。

３ 事業実施地域の目指すべき姿

SDGsに向けた地域資源循環型堆肥などの有機質資材の活用による環境負荷低減や，適切な病害虫管理による有機茶生産拡大を推進し，持続的な茶産地づくりに取り組む必要がある。また、有機ＪＡＳ認証を取得する茶園の拡大を図り、輸出を主とした碾茶製造も取り入れ、産地の基盤強化を図っていく。

※事業実施地域内へのグリーンな栽培体系の普及により、２に記載した課題がどう改善され、どのような姿になるのかを具体的に記載。

第２　グリーンな栽培体系の普及に向けた取組

１ 今後普及すべきグリーンな栽培体系

ア　取り入れる技術

	取り入れる技術	期待される効果
環境にやさしい 栽培技術	・有機JAS対応ペレット堆肥料の活用 ・有機JAS対応地域資源循環型肥料の活用	有機ＪＡＳ認証茶園の拡大，化学肥料の使用量低減
省力化技術	・有機茶園での網もち病の省力防除体系	網もち病に対する年間の銅剤散布回数を２回削減

２ 新たな栽培体系の普及に向けた目標

ア　環境負荷軽減の目標

指標 ＼ 年度		Ｒ４ （現状値）	Ｒ９ （目標値）	増減率（%）	備考
1	有機資材を活用した有機ＪＡＳ茶園面積の拡大 単位　ha	20	30	50%	現状値：日置市茶業振興会有機ＪＡＳ茶園面積より
2					
3					

※指標欄については、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に応じて指標を設定する（化学農薬の散布回数、成分数、化学肥料の使用量、窒素成分量　等）。
　また、設定した指標の単位が分かるように記載。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は　目標値/現状値-１＝増減率　で算出。

※化学農薬の使用量低減の取組については、化学農薬の使用量の低減割合の目標を設定する。ただし、導入する技術により、使用量の低減の確認が困難な場合は、取組面積の目標を設定する。

※化学肥料の使用量低減の取組については、化学肥料の使用量低減割合の目標を設定する。

※有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減の取組については、新たに取り入れる技術の取組目標面積を設定する。面積以外の指標で目標設定ができる場合は追加で設定することも可能。

※温室効果ガスの削減の取組については、ウにおいて取組面積の目標を設定することで、環境負荷軽減の目標設定に代えることができる。複数の技術を取り入れる場合に、個別の技術について取組面積の目標を設定する場合等、グリーンな栽培体系の取組面積以外に目標設定する場合は、アにおいて目標を記載することができる。

※備考欄には、現状値等の出典（現行のJA等の栽培暦、都道府県や市町村等の指標、検証農家の作業日誌や帳簿等からの試算など）を記載。

※１つの栽培体系で複数の環境負荷軽減の取組を組み合わせる場合は、取組ごとに指標を設定し、記載欄が足りない場合は適宜追加する。

イ　省力化目標

指標＼年度		R４ （現状値）	R９ （目標年次）	増減率（%）	備考
1	有機茶園での網もち病の省力防除体系による防除作業の削減 単位　回数	3	1	▲67%	二番茶後淺刈り技術と新規銅フロアブルの適期散布の組み合わせによる省力防除体系
2	単位				
3	単位				

※指標欄については、原則、取り入れる省力化技術に応じて、作業人員の削減、作業時間の削減、作業工程の削減の目標を設定する。複数設定する場合は、適宜記載欄を追加する。
※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。
※増減率は　目標値/現状値-１＝増減率　で算出。
※アシストスーツなど、定量的な目標設定が困難場合は、指標は当該技術を取り入れる面積とし、備考欄を追加して検証を行った農業者に対するアンケート等により確認した省力化の効果を記載。
※備考欄に現状値の出典（統計値、都道府県の農業経営指標、JA等の栽培暦、検証農家の作業日誌等からの試算など）を記載。

ウ　普及を目指す面積　（単位：ha）

指標＼年度	R４ （現状値）	R９ （目標値）	増減率（%）	備考
対象品目全体の作付面積	225	225	0%	
うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積	20	30	50%	
普及割合	9%	13%		

※対象品目全体の面積については、事業実施地域全体の面積（母数）を記載する。水稲（主食用米）を対象品目とする場合は、水田収益力強化ビジョン等における主食用米作付面積の傾向を踏まえて目標値を設定すること。
※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。
※増減率は　目標値/現状値-１＝増減率　で算出。
※「うち、グリーンな栽培体系に取組む面積」欄には、第２の１のウに記載する「グリーンな栽培体系」に取組む面積を記載する。
※生分解性マルチへの転換等、１つの栽培体系を複数品目に適用する場合等であって、品目別に目標を設定する場合は、品目ごとに表を作成。

第３　関係者の役割分担及び取組内容

構　成　員	役割分担及び取組内容				
	令和５年度	６　　年度	７　　年度	８　　年度	９　年度 （目標年次）
日置市　農林水産課	産地戦略の策定	産地戦略に向けた推進 有機茶製造の技術指導	産地戦略に向けた推進 有機茶製造の技術指導	産地戦略に向けた推進 有機茶製造の技術指導	次期産地戦略の策定
ＪＡさつま日置	輸出や有機茶の販売販路拡大	有機碾茶の推進	有機碾茶の輸出販路拡大	有機碾茶の輸出販路拡大	有機碾茶の輸出販路拡大
鹿児島地域振興局 農政普及課日置市駐在	有機農業の茶園管理技術指導 有機ＪＡＳ認証の伴奏支援	有機農業の茶園管理技術指導 有機ＪＡＳ認証の伴奏支援	有機農業の茶園管理技術指導 有機ＪＡＳ認証の伴奏支援	有機農業の茶園管理技術指導 有機ＪＡＳ認証の伴奏支援	有機農業の茶園管理技術指導 有機ＪＡＳ認証の伴奏支援

※新たな営農技術体系の普及・定着に向けての役割及び取組内容を具体的に記載してください。
※記載欄は適宜追加する等調整してください。

第4　その他（任意項目等）

※販売形式、販路開拓の検討状況、出荷先、PR方法等の販売方法や、他の補助事業等を活用した機械導入等の環境整備の計画等、栽培体系の普及に向けて位置付けておく事項があれば、
適宜記載欄を設けて記載。